

## 第2回 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会

日 時 令和元年11月1日(金)  
午後1時30分

場 所 恵那市役所会議棟大会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 議 事

(1) 第1回基盤整備計画策定委員会の意見と計画への反映について

(2) パブリックコメントの意見と計画への反映について

(3) 今後のスケジュールについて

第3回策定委員会 12月6日(金) 16時00分 会議棟大会議室

### 4. その他

### 5. 閉 会



## 第2回恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会 出席者名簿

(敬称略)  
令和元年11月1日

| 選 定 項 目                | 氏 名    | 備 考                  |
|------------------------|--------|----------------------|
| 中部大学教授                 | 磯部 友彦  | 委員長                  |
| 恵那商工会議所代表              | 山本 好作  | 副委員長                 |
| 大井地域自治区代表              | 前川 登   |                      |
| 長島地域自治区代表              | 山内 達雄  |                      |
| 武並地域自治区代表              | 瀨瀨 鍊一  |                      |
| 恵那市恵南商工会代表             | 堀 鑛    | (代理出席)中垣重壽           |
| 恵那市観光協会代表              | 阿部 伸一郎 |                      |
| 国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所 | 武田 正昭  | オブザーバー               |
| 岐阜県恵那土木事務所             | 八田 雅昭  | オブザーバー<br>(代理出席)加藤一郎 |

第2回恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会 席次表



## ○第1回基盤整備計画策定委員会での意見と計画への反映について

| No. | 委員会での意見                                       | 頁             | 計画への反映内容  |
|-----|---|---------------|---|
| 1   | 都市計画マスタープランやリニアまちづくり構想を踏まえ、この計画で何を指すのかを明記すべき。 | 1             | 「はじめに」の中の最後の段落に「恵那市が「住みたくなるまち」「来たくなるまち」「使えるまち」となるよう、」を追記しました。   |
|     |   | 2             | 「第1章 計画の概要 1 計画の位置づけ」に「リニアの建設を契機として、リニアの効果を最大限発揮するとともに、交通混雑箇所などの課題の解消を目指した基盤整備を行います。」を追記しました。   |
| 2   | 国道19号の永田ランプ前後の2車線区間についても渋滞解消を。                | 4             | 「第1章 計画の概要 2 整備方針と取組内容 国道19号(瑞浪恵那道路)」の表記方法を一部変更しました。  |
| 3   | 自動車以外の歩行者や自転車の利用について記載を。                      | 10            | 「第1章 計画の概要 (3) まちづくりに必要な基盤整備」の中で「④今後整備を行う道路については、歩行者や自転車等利用者が安全で快適に通行できる環境の整備を合わせて検討していきます。また、既存道路においても、歩行者、自転車等の安全対策を進めていきます。」を追記しました。 |
| 4   | 計画幅員が5mでは狭いのではないか。                            | 30            | 「第2章 前期計画 7 リニア軌道により分断される道路・水路等の機能回復」の「機能を上げる道路」について、計画幅員の記載を道路側溝まで含めた幅員を記載しました。また、参考として標準横断図も記載しました。                                   |
| 5   | 長島町正家の清水交差点は今後混雑が増すと予想される。                    | 40            | 「第3章 後期計画 1 市街地縦断道路の整備」の都市計画道路寺平的ヶ屋敷線の改良を行うことで国道257号線の利用者を分散させることができると考えます。   |
| 6   | 住宅地を確保するまちづくりを                                | 41<br>～<br>43 | 「第3章 後期計画 2 リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり」のそれぞれの地区において住宅地確保をするための基盤整備を進めることを明記しました。   |

|    |                               |               |   |
|----|-------------------------------|---------------|---|
| 7  | 野尻野畑地区の道路が狭い                  | 42            | 「第3章 後期計画 2リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり (2) 大井町7区」の中の表記を「地域の生活道路や地域外へのアクセス道路が狭隘なため、阿木川への架橋も含め、道路の改良について検討します。」に変更しました。                   |
| 8  | 地域別にどう変わっていくかが分かると分かりやすい。     | 50<br>～<br>52 | 「第4章 後期計画」の後に「大井町東地区」「市街地周辺地区」「武並町周辺地区」の事業箇所の図面を添付しました。   |
| 9  | 縦断道路・環状道路について都市計画マスタープランに反映を。 |               | 縦断道路については、現在都市計画道路として位置づけをされています。<br>環状道路については、都市計画道路として位置づけされている道路とされていない道路があり、反映できる道路は、都市計画マスタープランの見直しにあわせ、都市計画審議会にて審議していただきます。 |
| 10 | 駅前整備も必要。                      |               | 今回の基盤整備計画に記載はしませんが、駅前の再整備については、地域の方々の機運が高まれば共に検討を行ないたいと考えます。  |

## ○パブリックコメントでの意見と計画への反映について

| No. | パブリックコメントでの意見                  | 頁             | 計画への反映内容   |
|-----|--------------------------------|---------------|--|
| 1   | 野尻野畑地区の赤線道路の機能確保について           | 27<br>37      | 「第2章 前期計画 7リニア軌道により分断される道路・水路等の機能回復」にてJR東海にて機能回復をすることとしています。   |
| 2   | 野尻野畑地区の地域外へアクセスを根本的に改善する道路計画を。 | 42            | 「第3章 後期計画 2リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり (2) 大井町7区」にて、阿木川への架橋を含め、道路の改良について検討することとしています。  |
| 3   | 野尻野畑地区の基盤整備計画に記載のない道路について      | 42            | 「第3章 後期計画 2リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり (2) 大井町7区」にて、「地元と協議を行い、優良な宅地を確保するなどの都市的土地利用を促進するまちづくりを進めます。また、地域の生活道路や地域外へのアクセス道路が狭隘なため、阿木川への架橋も含め、道路の改良について検討します。」としています。        |
| 4   | リニアの騒音公害の排除を強く謳っていただきたい。       | 1<br>41<br>42 | 「はじめに」の中で基盤整備の目的の中に「良好な住環境の保持」を追加しました。<br>「第3章 後期計画 2リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり」の大井町東地域、大井町7区において「リニアの建設にあたっては、建設後も良好な住環境を保つために、リニアによる影響が最小限になるようJR東海と協議を行います。」を追記しました。 |



## 第1回恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会【会議要旨】

日時：令和元年9月3日(火)

午後1時30分～午後3時20分

場所：市役所会議棟大会議室

1. 開会
2. 委嘱書交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱について
6. 委員長及び副委員長の選出
7. 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定に関するスケジュール等について
8. 議事
  - (1) 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画について
  - (2) 会議の公開及び公表について
9. その他
10. 閉会

公開または非公開の別 公開

出席者（敬称略）

市長：小坂喬峰（途中退席）

委員長：磯部友彦

副委員長：山本好作

委員：前川登、山内達雄、額綱錬一、中垣重壽（代理）、阿部伸一郎

オブザーバー：武田正昭、八田雅昭

傍聴者 4名

## 1. 開会

## 2. 委嘱書交付

市長から委員・オブザーバーを委嘱

## 3. 市長挨拶

本計画はリニア中央新幹線の効果を市全域に波及させるため基盤整備を考えるもの。世界基準の品質やサービス、ブランド力が求められる。やるべきことはたくさんあり、それを支える基盤をいかに構築していくか。皆さんの活発な意見をいただきたい。

## 4. 自己紹介

各委員・オブザーバーから自己紹介

## 5. 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱について

事務局から恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱のとおり説明。

## 6. 委員長及び副委員長の選出

委員長：学識経験者 中部大学工学部教授 磯部友彦委員

副委員長：恵那商工会議所からの推薦 山本好作委員

(市長退席)

## 7. 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定に関するスケジュール等について

- ・第1回委員会 9月 3日(火) 13時30分～
- ・パブリックコメント 9月 10日(火)～10月 9日(水)
- ・第2回委員会 11月 1日(金) 13時30分～
- ・第3回委員会 11月下旬～12月中旬

## 8. 議事

(1) 恵那市リニアまちづくり基盤整備計画について

事務局から「はじめに～第1章」について説明

《発言内容》

(前川委員)

- ・ストック効果の具体的な例を教えてください。

(事務局)

- ・リニア建設の際に造られる工事用道路を恒久的な道路とし、沿線の発展等への有効活用を考えている。

(磯部委員長)

- ・一般的なストック効果としては、リニアへのアクセス道路沿道における土地利用の促進等が継続的に行われることなどが考えられる。

(阿部委員)

- ・リニアのトンネル工事の際に発生する残土は有効活用できないか。

(事務局)

- ・現在確定していないが、建設発生土の有効利用として、建設発生土活用候補地の谷を埋めて農地造成を行う計画が進められている。

(前川委員)

- ・リニアが通ることによって得をする人と損をする人がいる。損をする人にも納得してもらえよう、リニアのメリットを説明する必要がある。

事務局から「第2章」について説明

《発言内容》

(山本副委員長)

- ・道路について、自動車以外の歩行者や自転車の利用についても記載が欲しい。また、国道19号について、永田ランプだけでなく、前後2車線の区間の交通渋滞も解消しないといけない。

(事務局)

- ・現在国土交通省は、国道19号瑞浪恵那道路の建設に力を入れられている。瑞浪恵那道路整備後には、正家～まきがね間の恵那バイパスの暫定2車線化区間についても改良を要望していきたい。

(前川委員)

- ・P27 ⑦⑧について、現在、道幅が狭いため緊急車両等が通行しやすくなるよう道路にしてほしい。

(事務局)

- ・道路が狭いと住民の意見があり、後期計画で大井町を面的に整備していく計画としており、今後、住民と協議を行っていく。

(磯部委員長)

- ・構成として、地域別の流れをまとめるとわかりやすくなると思う。

(中垣委員代理)

- ・P19について、正家清水交差点から国道19号正家交差点間で渋滞が発生している。正家第二区画整理による交通量の増加で、正家清水交差点付近で国道257号を北進し右折する車両による渋滞が発生することはないか。

(事務局)

- ・P38 後期計画で正家清水交差点の手前で国道257号から正家第二区画整理方面に向かう道路を整備することで、交通量の分散を図りたい。

(中垣委員代理)

- ・市内に住宅地が少ないため、住宅地を確保するまちづくりができないか。

(事務局)

- ・リニア関連の工場などが来ることにより住民が増加することが予想される。P39~41 大井町東地域、大井町7区、武並町西部地域では面的な整備を行うことで、道路と併せて住宅地整備等の土地利用を進めていくことを考えている。

事務局から「第3章～第5章」について説明

《発言内容》

(磯部委員長)

- ・前期計画にはリニア建設に対する対策面が強く、早く整備を行う必要のあるものが入ってい

る。整備が後になればなるほどリニア効果が弱くなるので、後期計画の内容は前倒しになるとよい。

(山本副委員長)

- ・後期・将来計画に注目している。先のことを考えると、縦断・環状道路は非常に重要。今から都市計画図を書き直すなど、踏み込む必要がある。

(前川委員)

- ・後期高齢者が増えていく社会では、自動車だけでなく自転車・歩行者のネットワークを考えていく必要があると思われる。自転車や歩行者を考えると、道路の計画幅員 5m では狭い気がする。

(事務局)

- ・計画幅員には側溝を含まない幅員を記載している。表現方法については検討する。

(武田オブザーバー)

- ・上位計画に都市計画マスタープランやリニアまちづくり構想があるので、それらを踏まえて本計画では何をまとめるのかより明確にするとよい。

(八田オブザーバー)

- ・広域アクセス、市内アクセスについてわかりやすくまとめられている。道路ネットワーク的なまとめ方について、自動車以外の視点が追加されるとよい。

(前川委員)

- ・パブリックコメントには本資料全てを公表するのか。

(事務局)

- ・概要版も用意しており公開する。計画（案）は省略せずに公開する。

(山本副委員長)

- ・中心市街地で区画整理ができないか。使いやすく魅力のある中心市街地にしていく必要があると思う。

(事務局)

- ・10年後 20年後のまちを考えたときに、そうした発想もある。地権者の意向がまとまるとよい。

(磯部委員長)

- ・まちの魅力を上げていかないと中心市街地に人を集めても意味がないと思われる。
- ・交通を国道 19 号のみに依存してはいけないので、市内アクセス、生活道路については、市民の使いやすい道路整備を計画する必要がある。

## (2) 会議の公開及び公表について

原則公開とし、個人情報を取り扱うような場合には委員長と協議して決定する

## 9. その他

第 2 回策定委員会 11 月 1 日（金）13 時 30 分～ 会議棟大会議室

## 10. 閉会



小坂市長から委嘱書を受け取る委員＝恵那市役所で

恵那市リニア策定委 発足し委員など委嘱 11月の計画決定目指す 恵那市リニアまちづくり 基盤整備計画策定委員会が 三日、発足した。二回の委 員会と意見公募を経て、十 一月の計画策定を目指す。 委員会は二〇一四年に策 定した市リニアまちづくり 構想に基づき、具体的な実 施事業を定める。関係自治 区の代表や学識経験者ら委 員七人と国、県のオブザー バー二人で構成。委員長に 中部大の磯部友彦教授、副 委員長に恵那商工会議所の 山本好作会頭を選出した。 議事に先立ち、小坂喬峰市 長が委嘱書を手渡し、「リ ニア中央新幹線の効果を市 全域に波及させるための基 盤整備のあり方について率 直で活発な意見を」とあい さつした。

開業まで）、後期（二七年の東京―大阪間開業）、将来（東京―大阪間開業以降）の三期の期間に区分する方針などを示した。 委員からは「トンネル掘削の残土を活用した農地の再整備を」「道路整備と並行して住宅地の確保が必 要」などの意見が出され た。（長谷部正）

中日新聞(2019年9月4日)

三野新聞(2019年9月8日)

## 恵那市

# リニア基盤整備の策定委設置

## 10日からパブリックコメント

恵那市は、リニア効果を「12人で構成。委員を委嘱。まちづくりに活かす」として写真、委員長には、平リニアまちづくり基盤整備成26年に策定した「市リニア計画策定委員会」の初会合を3日、市役所会議棟で開いた。基盤整備計画案を確認し意見交換した。10日からパブリックコメントで市民の意見も集約し計画案に反映する。

委員は、大井町、長島町、武並町の代表者と学識経験者、商工業、観光の関係者7人と国、県のオブザーバ

小坂喬峰市長は「リニアの効果は市全域に波及させたい」とあいさつ。磯部委員長は「リニア効果は、飛行場ができるくらいの意味があるが、まちにとって良い面も悪い面もある。マイナスを引き上げていく発想が大事。市全体を見つめなおして取り組んでいきたい」と呼び掛けた。

計画では、2027年リニア開業までの「前期計画（7年間）、37年の東京―大阪間開業までの「後期計画（10年間）、37年以降の「将来計画」に分類。既存の道路を生かした市街地環状道路と縦断道路の整備、永田ランプの混雑解消、リニア軌道部（地上部）の迂回道路整備、恵那峡サービスエリアへのスマートインターチェンジ設置、工事用道路の工事終了後のホームページやリニアまちづくり課窓口、庁舎1階の情報公開コーナーで閲覧可能。寄せられた意見は11月1日開催の第2回委員会で検討する。

建設通信新聞(2019年9月11日)

## 3期に分け基盤整備

## リニアまちづくり案

### 恵那市

岐阜県恵那市は、2027年のリニア中央新幹線開業を見据えた基盤整備などの方針を示す「恵那市リニアまちづくり基盤整備計画（案）」をまとめた。リニア東京―名古屋間開業までを「前期」、

東京―大阪間開業までを「後期」、開業以降を「将来」の3期間に分け、道路などの整備を進める。10月9日まで市民などの意見を募集し成案化する。

同市が人やモノが集まる結節点となるため東西南北に交通基盤を整備する。具体的には、リニア岐阜県駅（中津川市に建設予定）と恵那市を結ぶ「東濃東部都市間連絡道路」の整備実現に向けて県や中津川市と協議を推進する。

また、奥三河へのアクセス向上を図る「三河・東美濃連絡道路」、下呂・高山方面とつながる「主要地方道恵那那白川東白川線」の未整備区間の整備を促進するほか、「主要地方道豊田明智線」「国道418号・一般県道恵那八百津線」「国道19号（瑞浪恵那道路）」の整備を促す。国道363号と、主要地方道恵那白川線は道路改良を進める。

このほか、中央自動車道恵那IC周辺の混雑解消のため、恵那峡SAにスマートICの設置を目指す。